

# 技 術 者 物 語

Vol.4  
2016

Spring

Touhoku Construction  
Engineer Story

私たちは地域の安全・安心をつくっています



東北建設業青年会



# 会長からのメッセージ



東北建設業青年会 会長  
吉田 昌平

生まれ変わる建設業  
～地域建設業の輝かしい未来へ～

東日本大震災から5年という大きな節目を迎え、「復興・創生期間」に移行する中、復興の更なる加速化が求められております。

情報化施工の導入などにより生産性向上を図るとともに、経営環境を改善し、働く人の賃金の向上そして現場の安全性向上を目指してまいります。私たち地域建設業は、地域に根差した建設技術集団として「地域の安全・安心を守る」という使命感を持っております。災害対応の最前線に立つ「危機管理産業」であり、地域インフラの「まち医者の存在」であると自覚しています。

少子高齢化により生産年齢人口が減少する今こそ、建設業における担い手確保・育成が喫緊の課題であります。建設業は人のため、社会のためになる尊い仕事です。そして今、建設業は持続可能な業界へと生まれ変わろうとしています。そこにはみなさんの若い力がどうしても必要なのです。

みなさんの力が地域と日本を支えます。ぜひ私たちの仲間になって「やりがい」「地図に残る仕事」「達成感」を実感し、地域建設業の輝かしい未来に向かってスタートしましょう。

「がんばろう! 東北 がんばろう! 日本  
がんばろう! 建設業」

## CONTENTS

会長からのメッセージ  
東北建設業青年会 会長 吉田 昌平 .....01

主な建設業資格・免許一覧 .....01・02

青森 太田 龍一さん .....03

岩手 佐藤 芳信さん .....05

宮城 赤間 清正さん .....07

秋田 木曾由美子さん .....09

山形 長谷部和也さん .....11

福島 引地 彩さん .....13

## 主な建設業資格・免許一覧

### 土木工事業

管理系

- 1級土木施工管理技士
- 2級土木施工管理技士



### 舗装工事業

管理系

- 1・2級舗装施工管理技術者



### 建築工事業

管理系

- 1～2級建築士
- 1級建築施工管理技士
- 2級建築施工管理技士



### 型枠大工工事業

技能系

- 1～2級型枠施工技能士



### とび・土工工事業

技能系

- 1～2級とび技能士
- 3級とび技能士
- 足場の組み立て等作業主任



### 切断穿孔工事業

技能系

- コンクリート等切断穿孔技士



### コンクリート圧送工事業

技能系

- コンクリート圧送施工技能士(1～2級)



### 機械土工工事業

技能系

- 1～2級建設機械施工技士



### 建設場重業

技能系

- 移動式クレーン運転士



### 鋼構造物工事業

管理系

- 1～2級鉄骨製作管理技術者
- 建築鉄骨製品検査技術者
- 建築鉄骨超音波検査技術者



### 鉄筋工事業

技能系

- 1～2級鉄筋施工技能士



### 左官工事業

技能系

- 1～2級左官技能士
- 3級左官技能士

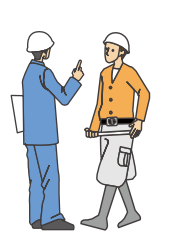


### 大工工事業

技能系

管理系

- 1～2級建築大工技能士
- 1級建築施工管理技士
- 2級建築施工管理技士
- 1～2級建築士
- 木造建築士



### 板金工事業

技能系

- 1～2級建築板金技能士
- 3級建築板金技能士



### 屋根工事業

技能系

- 1～2級かわらぶき技能士
- 瓦屋根工事技士



### 塗装工事業

技能系

- 1～2級建築塗装技能士



### 造園工事業

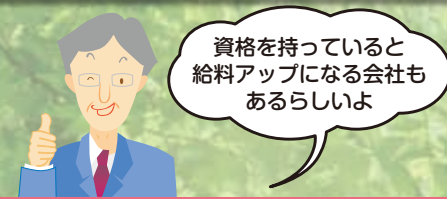
技能系

管理系

- 1級造園施工管理技士
- 2級造園施工管理技士
- 1～2級造園技能士



管理系と技能系の資格・免許があるのね



資格を持っていると給料アップになる会社もあるらしいよ



建設業の資格・免許はキャリアアップにつながるんだ





## 家族を守り地域を守る 心優しき土木エンジニア

工事部主任  
**太田 龍一さん**

1976年12月31日生まれ。青森県田舎館村出身。  
2級土木施工管理技士 測量士補 ブロック塀診断士

株式会社桜庭建設  
本社 / 〒036-0405  
青森県黒石市大字南中野字オノ神42-6  
TEL.0172-54-8550  
FAX.0172-54-8439



## 切り開く道路工事に面白さ 仕事に対する責任の重さも充実感に



茨城県大子町で生まれた太田龍一さんは、型枠大工をしていた父親の仕事の都合で、幼稚園から青森県田舎館村に住むことになった。将来の夢は「建設機械の運転手」になること。自宅の近くで行われていた道路工事で、土砂を運ぶバックホウを見て「自分もこういう機械を動かしてみたい」と思った。



しかし、不思議なもので時がたつにつれて建設機械への興味は薄れ、高校も普通科に入学した。高校の夏休みに父親から「アルバイトをしてみないか」と誘われたのが、再び建設業への興味を呼び戻すきっかけ

なった。

高校卒業後は、北海道札幌市にある2年制の専門学校の土木工学科に進学。1年のうち半年間は学校で授業を受け、残りの半年間は建設会社で実習するという特殊なカリキュラムの学校だった。その実習でお世話になったのが、現在勤めている桜庭建設だった。

実習は学校で教わった知識を建設現場で実践する場。太田さんはアルバイトの経験もあるだけに「現場のことは少し分かっているつもり」だったが、実際の現場とアルバイトや学校で習ったこととは違っていた。

「測量機器を据え付けるのにもコツがあり、社員の人たちと自分がやるのでは、据え付けにかかる時間も精度も違った」。それでも、いろんなことを教えてもらいながら実習に取り組んでいるうちに「建設業は面白い。自分たちがつくったものがずっと形に残るし、みんなの役に立っている」と思うようになり、建設業への就職を決めた。

就職先に選んだのは、桜庭建設。延べ1年間、実習していたこともあり「(就職の)話とはとんとん拍子に決まり、実習生からスムーズに社員にさせてもらった」という。

社員になって感じたのは「仕事に対する責任」だ。「アルバイトや実習生と違って、『分からない』では済まされないで、とにかく勉強の毎日だった」と振り返る。

入社から間もなく20年になる。この間、道路や除雪、災害復旧など、数多くの工事に携わった。「道路の新設工事が一番面白い。何も無いところから道路を切り開いていく感じがたまらない」と目を輝かせる。

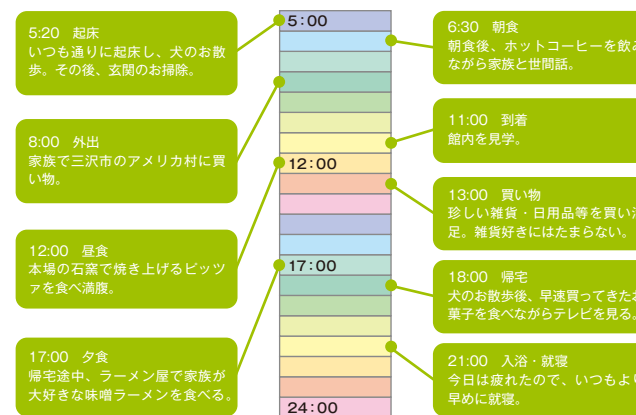
毎年冬季は道路の除雪に携わっている。大みそかが誕生日だが「休んだ記憶がない。でも、地域の交通を確保する大事な仕事だから」という気持ちで仕事に励んでいる。

現場代理人(所長)も何度も経験した。社長に代わって現場を取り仕切る仕事だが「最初の頃は書類の書き方も分からず、先輩から教えてもらいながら書いた。作業内容も分からないところは職人さんから教わった」。この謙虚な姿勢は今も変わらない。

「建設業の仕事は、経験したことが次に生かせる。現場のみんなと団結して、ものをつくりあげていく工程が楽しく、やりがいがある。若い人たちにもぜひ、建設業の魅力を知ってほしい」と呼び掛ける。

昨年11月に長女が生まれた。奥さんと娘さんという守るべき家族を持ち「新たな責任感がわいてきた。家族のためにも仕事を頑張りたい」と張り切る毎日だ。

### ある日の休日



### 職場訪問



太田さんが担当している現場は、国道394号防雪工事。黒石市が位置する津軽地方は国内でも有数の豪雪地域。道路の法面(のりめん)に積もった雪による雪崩が度々、起きている。この雪崩を防止するために柵を設置する工事だ。

柵を支える土台として、羽根付パイプアンカーと呼ばれる器具を約150本、土の中に打ち込む。「地域の生活を支える道路を守る大切な仕事」だけに、丈夫で品質の良い柵づくりに取り組んでいる。



### 教えて! 建設用語

#### エアーパーンチャー

斜面を安定させるために設置するアンカー(錨)を打ち込む機械。空気の圧力を利用し、その衝撃力で土砂を掘り進めることができる。







## 不屈の技術者魂 持つ笑顔の土木マン

土木部係長  
**佐藤 芳信**さん

1981年11月4日生まれ。岩手県奥州市出身。  
1級土木施工管理技士 2級舗装施工管理技術者

株式会社 佐藤組  
本社 / 〒024-0051  
岩手県北上市相去町旧館沢20-1  
TEL.0197-67-5555 FAX.0197-67-5564  
URL <http://www.satogumi.info>



## 大規模構造物に憧れて転職 初めての直轄現場代理人で優良表彰の荣誉



岩手県内陸中南部に位置する江刺市（現奥州市江刺区）で、トラックドライバーの父とパート勤めなどで家計を助けた母との間に、2人兄弟の二男として生を受けた佐藤芳信さん。市内の小・中学校を経て岩谷堂農林高等学校の農業土木科に進学した。その理由は「土木を狙ったわけではなく、たまたま一番近かった」から。

しかし、高校の授業で土木について学んでいくうちに関心が高まっていった。授業では農業土木や農業水利の科目も多かったが、「勉強している中で、ダムや橋、トンネルなどの大きい構造物のことが頭に入ってきた」という。

土木への関心が高まってきた佐藤さんが選んだ就職先は地元の建設会社。7年間勤め上げ、現場監督も経験したが、土木部門の規模が小さく、興味を惹かれていた大規模構造



物に携わる機会がなかったため、「もっと大きな仕事がしたい」と一念発起し、北上市に拠点を置く佐藤組の門を叩いた。面接に当たった佐藤寛常務は「現場管理がパソコン中心になってきた中、若い人に期待するところは大きかったし、希望して来てくれるなら入社してほしいと思った」と当時を振り返る。印象も良く、採用は決まったが、入社は在籍していた会社での現場の仕事を全うしてからとなった。

新たな仕事の舞台に立った佐藤さん。「ある程度の技術は身に着いている」と自負していたが「規模が大きく、覚えるのも大変でついていくのがやっとだった」と思わぬ壁に直面することになる。

それでも、上司や先輩から丁寧に、時には厳しく指導を受けながら、現場員として経験を積み、規模の壁を克服。この間、1級土木施工管理技士の資格も取得し、技術者としてのスキルを高めていった。

入社から3年が過ぎ、着実な成長を遂げた佐藤さんが初めて現場代理人（所長）を任されたのが、国直轄事業である胆沢ダム関連の法面工事。施工管理の厳しい国事業、しかも法面工事は初めての工種とあって「正直、不安のほうが強かった」というが、発注者の監督官や同種工事の経験がある先輩技術者の指導もあり、見事完成にこぎ着けた。しかも、同工事は東北地方整備局長の優良工事として表彰を受けるなど、極めて高い評価を得た。

その後は、橋梁や大型構造物を任せられることが増え、「まさに望むところ。仕事をしているという実感がある」

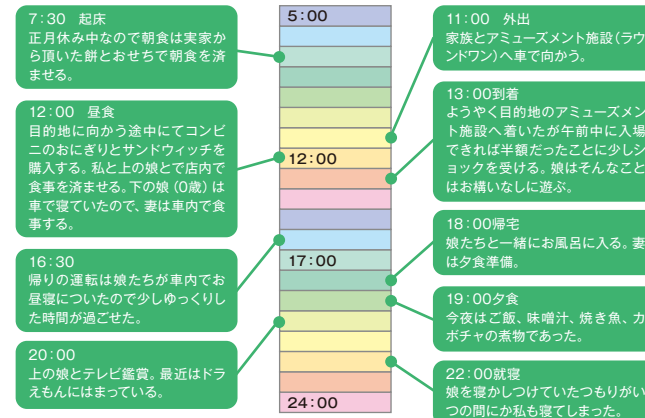
と、やりがいを持って仕事に打ち込んでいる。

一方、プライベートでは入社3年目に結婚し、2人の娘さんに恵まれた。趣味は音楽で、レゲエのDJを務めるほど造詣が深かったが、今は「子どもと遊ぶのが楽しい」と、良きパパぶりを発揮している。

公私ともに充実した生活を送る佐藤さんが、常々気に掛けているのが東日本大震災に伴う津波で甚大な被害を受けた沿岸部の復興だ。幼い頃、海水浴で訪れた思い出の地だけに「海の景色も様変わりした」と心を痛めつつ「早期復旧に貢献したい」との思いを強くしている。

「やらなければならない仕事がたくさんあるが、技術者が不足している。厳しい世界だが、モノづくりの達成感を分かち合える人なら是非建設業界に入り、力を貸してほしい」。地域の復興、そして業界の未来を担う若者に熱いメッセージを送る。

### ある日の休日



### 職場訪問



佐藤さんが最近まで担当していた現場は、北上市発注の九年橋歩道床版・橋面工工事。同市鬼柳の地域住民にとって、生活に必要不可欠な橋として長年親しまれてきたが、老朽化が著しかったため改修され新たに歩道橋を新設することになった。工事契約後、先行工事との兼ね合いで実質的な着工が遅れたこともあり、養生が難しい寒中のコンクリート打設にならないよう、型枠や鉄筋などの作業を急ピッチで行った。



### ラチェットレンチ

ラチェット機構を利用することで回転方向が一方に制限され、逆回転だと空回りするため、ボルト・ナットなどを素早く締めることができる工具。







## 暑さ寒さも何のその 根っからのアウトドアマン

工事部次長  
**赤間 清正**さん

1978年5月31日生まれ。宮城県仙台市出身。  
1級土木施工管理技士 1級舗装施工管理技術者

栗村建設興業株式会社  
本社 / 〒984-0838  
宮城県仙台市若林区上飯田4-17-44  
TEL.022-289-1821  
FAX.022-289-1822



## つくった道路を子どもに自慢 「ありがとう」の言葉に仕事の充実感



幼い頃からものづくりが好きだった赤間清正さん。小学校の夏休みの自由工作では、小さな木の家や動くおもちゃなどをつくった。「手先を動かしているのが好きで、ものづくりをしていると、あっという間に時間が過ぎた」という。

中学校に入学するタイミングで自宅が新築された。大工さんの手際の良い仕事ぶりを見ているうちに「自分も大工さんになりたい」と思うようになった。

高校は普通科に入学。「自分が本当にやりたいことは何か」と悩んだあげく、大工をしている親戚の手伝いをするようになった。仕事自体には興味はあったが、同年代の仲間がいなかったこともあり、「自分が求めていたものとは違う」と感じるようになった。結局、約1年で大工見習いを辞めた。

その後はさまざまなアルバイトを経験。たまたま交通誘導員のアルバイトで派遣されたのが栗村建設興業の現場だった。ちょうど社員を募集していた時期で、現場の所長から「うちの会社に来ないか」と声を掛けられた。同年代の人も入社すると聞き「ぜひ、よろしくお願いします」と返事をした。

同社は舗装工事をメインとする会社。入社後しばらくは、現場の作業員と同じくスコップやアスファルトをならすレーキという道具を持って、舗装工事に従事した。その当時のことを「がむしゃらに仕事をしていたので、1日があっという間だった。舗装工事は道路をつくる仕上げなので、完成していく様子が分かりやすかった」と振り返る。

その後、現場を管理する仕事も教わり、少しずつ技術者としての知識を身に付けていった。作業員は50~60歳代が大半で、赤間さんにとっては父親のような存在。「作業員さんたちに怒られることもあったが、親しみを持って接してくれた。最初に同じような仕事をしていたので、指示を出される側の立場になって段取りを考えることができる良い経験になった」という。

2級土木施工管理技士の資格を取得してからは、現場代理人（所長）も任されるようになった。デビューは舗装の維持補修工事で、約2000万円の仕事だった。「役所の人と打ち合わせたことを忘れないよう、必死でメモを取った。プレッシャーはあったが、いろんな人にサポートしてもらい、なんとか乗り切ることができた」と懐かしむ。

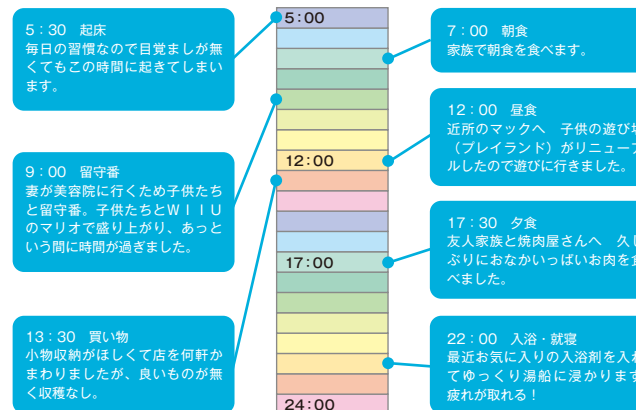


道路工事の現場は屋外なので、夏は暑く冬は寒い。特に夏場は全身から汗が噴き出す。それでも「自分たちがつくったものが、いつまでも形に残る。子どもたちにも『この道路はお父さんがつくったんだよ』と自慢できる」と誇らしげに語る。

東日本大震災の津波は、会社のすぐ近くまで押し寄せたが、幸運にも社員、社屋とも無事だった。震災後しばらくの間、赤間さんは道路の復旧工事に取り組んだ。液状化現象で浮き上がったマンホールを下げたり、亀裂が入った道路を補修したりする仕事だ。「道路が通れるようになると、地域の人たちから『ありがとう』と感謝された。ものづくりとはまた別の充実感があった。この仕事に就いて良かったと思った」と語る。

休日は家族とキャンプに出掛けることが多いとか。仕事もプライベートも外で過ごす根っからのアウトドア派だ。

### ある日の休日



### 職場訪問



赤間さんの職場は、仙台市内の長町八木山線（西の平工区）舗装新設工事の現場。太白区役所から八木山動物公園方面に向かう新しい道路の舗装などを行うもので、現場代理人（所長）を担当している。

赤間さんの会社を含めた6社が同時に工事を進めているため「工事場のやり取りなど、各社との調整が必要。自社の担当部分だけ進めるわけにいかないところが難しい」と話す。このような調整や協議も所長の仕事だ。



### アスファルトフィニッシャー

アスファルト舗装用の建設機械。アスファルト合材を積み込むホッパー、原動機、走行装置を有するトラクタ部分とアスファルトを敷ならすスクリードからなる。



### 【社長 栗村 英樹氏】

赤間君は平成11年に入社しました。学校は土木系ではありませんでしたが、持ち前の頑張りで見習いながら勉強して資格を取得しました。丁寧な仕事ぶりは発注者からも信頼を受けており、昨年には仙台市から優良工事表彰も受賞しました。

今後はさらに信頼される技術者として研鑽を積むとともに、創意工夫をもって施工管理に取り組み、会社にとってだけでなく地域社会の発展に貢献する人材となるよう期待しています。







わが道を行く  
女性技術者の「魁」、

さきがけ  
木曾 由美子さん

1979年1月生まれ。秋田県秋田市出身。  
2級建築士 1級建築施工管理技士

株式会社 長谷駒組  
本社 / 〒010-0013  
秋田県秋田市南通築地 8-10  
TEL. 018-834-5445  
FAX. 018-834-5437



父の影響で幼い頃から建築好き  
顧客からの感謝の言葉が仕事の励みに



「北国育ちは無口だが芯が強い、と言われる。言葉数は多くないが「わが道を行くタイプ」という木曾由美子さん、典型的な北国育ちと言えるかもしれない。

1979年1月に2人姉妹の妹として秋田市で生まれた木曾さん。子どもの頃は「どちらかと言えば内向的で、1人で黙々と何かを作ったり、お絵描きをしていることが多かった」。ただ、父親が大工職人だったため、仕事場に連れられていく中、自然に建築と親しんでいった。

中学生時代には父親が自宅を建てている様子を間近で見て「おもしろそうだ」と感じていたという。一方、中学校

ではテニス部に入部。「相変わらず静かだった」が、キャプテンを任されたことで、「人の先に立って行動しなければいけない」と意を決し、人前にも積極的に出るようになった。

部活動を通じて心身ともに成長した木曾さんが選んだ進学先は秋田県立秋田工業高校建築科。「将来の進路についてはあまり意識していなかったが、進学するため勉強ばかりするような生活は嫌だった」。当時の建築科は1学級40人中、15人程度が女子生徒で「ある意味、女性が入るのは普通だった」と振り返る。

就職活動に当たっては、同期の女性の多くが設計事務所や住宅メーカーを目指す中、「図面を引く仕事ではなく、現場に出る仕事がしたかった」と、迷わず建設会社を選択。同校に求人寄せた中でも、担任教師に強く勧められた地元・秋田市の老舗建設会社である長谷駒組に決めた。

1997年4月に入社し、すぐに配属されたのが中学校体育館の建築現場。もちろん「必死だったが何をしていたかわからない」ため、上司・先輩に聞きまわり、アドバイスをもらったが、女性が少ないこともあり「一歩引く感じがあって少しやりづらい」と思ったこともあった。しかし、技術者として経験を積み、周りが見え始めると「女性だから気を使って大事にしてくれる」と、周囲の配慮に気付き、素直に受け入れられるようになった。

そして今は「女性の職場はネチネチした印象があるが、ここは何か問題があっても尾を引かず、カラッとしている。あまり物事にこだわりはなく、なるようになると思ってい

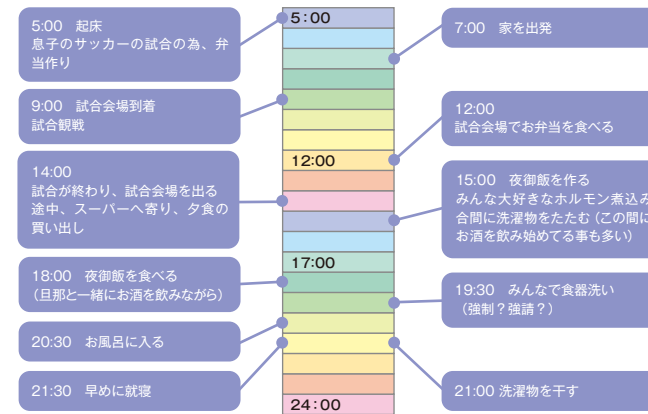


るが、ダメなものダメ、という自分の性格に向いている」と、会社や建設業界にしっかりと馴染んでいる。

印象に残っている仕事は、2年ほど前に現場代理人（所長）を任された秋田市内にある料亭の改修工事。昼はランチ、夜は5時から営業とまとまった作業ができない中、店の従業員と予約時間などを小まめに打ち合わせ、作業時間をねん出した。この現場を含め「お客さんに「あなたが現場代理人で良かった、と言われると嬉しい」と、クライアントからの感謝の言葉が仕事上の大きな励みになっている。

プライベートでは、ある建築現場で中学校時代の先輩と再会したのが縁で2002年に結婚し、現在は小学生6年と5年の男の子2人の母になった。家庭と仕事の両立は大変だと思うが、「会社も家族も理解があり、とても恵まれている」と、周囲の支えを力に代え、自ら選んだ道をマイペースで歩き続ける。

ある日の休日



【社長 長谷川 尚造氏】

木曾は当社初の技術系女性社員として入社以来、男性社員と全く同じキャリアを経て今では現場代理人として官民間問わず様々な現場で活躍をしております。女性ならではの感性や繊細さからくる仕事ぶりは、お客様から高い評価をいただいております。

家庭を持ち、子育てをしながら業務をこなすのは並大抵のことではないとは思いますが、同じ立場で働いている女性のパイオニアとして、これからもプライドを持って頑張りたいと願っております。



職場訪問

木曾さんが現在携わっているのは、秋田県が発注し、秋田市内で工事が行われている秋田地区中高一貫教育校中学校体育館棟の建築工事。RC一部S造3階建て延べ3481平方メートルという大規模な公共建築だ。施工では、冬場の基礎工事となったため、コンクリートの品質確保に留意したという。また、校舎など他の建物は使用しながら工事を進めているため、教師や生徒などの学校関係者らの安全対策には特に気を使っている。



足場

手の届かない高所部分の作業を行うために組む工事用の通路。建築をつくるためだけに使用し、完成とともに解体する仮設である。







## 重量挙げで鍛えた体と心 頼られる若きエース

工事一課係長  
**長谷部 和也**さん

1986年5月22日生まれ。山形県高島町出身。  
2級土木施工管理技士

大浦工業株式会社  
本社 / 〒992-0332  
山形県高島町大字相森145-1  
TEL.0238-52-0204 FAX.0238-52-0538  
URL http://www.o-ura.co.jp/



## インターンシップが人生変える 工事完成の達成感がやりがい



3日間のインターンシップがきっかけで、大浦工業に入社した長谷部和也さん。短期間でどのような魅力を感じたのだろうか。

長谷部さんは、ブドウづくりが盛んな山形県南部の高島町で生まれ育った。小学生時代はバスケットボールのスポーツ少年団に所属し、中学校では陸上部で中距離を走るなど、スポーツ中心の生活を送っていた。

高校はとなりまちにある米沢工業高校土木科に入学。「特に建設業に興味はなかったが、一番活発で楽しそうな

土木科に入った」という。部活はウエイトリフティング部に所属。「自分の限界に挑戦する競技なので、体力と精神力が鍛えられると思った。大会では注目を浴びることができる」。

3年生の時に大浦工業の解体工事現場でインターンシップをさせてもらった。鉄筋コンクリートの建物が大型重機で壊されていく様子を見て「ものすごく衝撃的で、時間を忘れるほど楽しかった」と振り返る。

その年の夏祭りでも、インターンシップでお世話になった同社の大浦健取締役専務と出会った。大浦専務は、食い入るように解体工事を見つめていた長谷部さんの顔を覚えており、なんとなく「就職、決まったか」と声を掛けた。

「まだです」と答えた長谷部さんに「だったら、うちの会社に来たらいいべ」と大浦専務。こんな会話から長谷部さんの就職が決まったのだ。

入社後すぐに道路改良工事の現場に配属された。高校でも実習経験のある測量が主な仕事だったが「学校で習った方法とは違って。熟練したやり方が勉強になった」。作業員の動きぶりを見ても「スコップの使い方に驚いた。一つひとつの動作に無駄がない」と感心した。

現場のさまざまなことに興味を持ち、綿が水を吸うかのごとく知識として身につけていった長谷部さん。「最初のうちは作業員さんにも怒られてばかりだった。それでも3年目ぐらいから言うことを聞いてくれるようになった」。

会社の支援もあって資格取得のために講習会に通い、入社3年目で2級土木施工管理技士に。これを契機に現場代



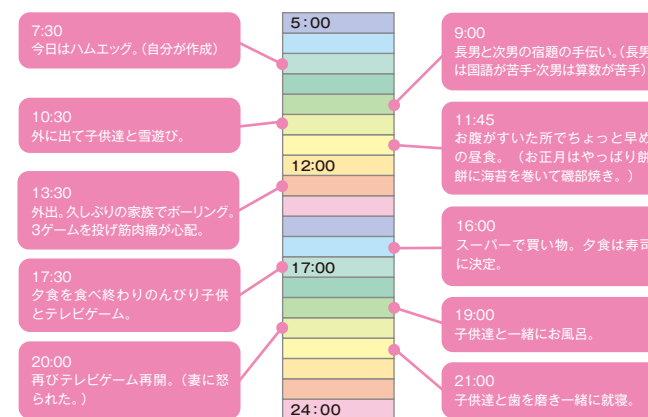
理人（所長）も任されるようになった。

デビューは長さ約200mの歩道工事。所長と言っても現場の管理だけでなく、測量や丁張り、発注者との協議など、やるべきことは多かった。工事の完成期限（工期）が迫ってくる恐ろしさを身に染みて感じた。「工期までに完成できるか不安でしかなかった。書類も何度も書き直した。検査が終わった時の達成感は今でも忘れない」と話す。

その後、数多くの現場で経験を積んだ。今や会社のエース的存在で、上司や同僚からの信頼も厚い。「現場周辺の住民との交渉など、まだまだ学ぶべきことは多い。会社に利益をもたらす工事の見極め方なども勉強していきたい」と意欲を示す。

19歳にして父親となった長谷部さん。その後さらに2人の子宝に恵まれ、家族5人で米沢市内に暮らす。会社でも家庭でも頼られる若きエースの活躍は、まだまだ続く。

### ある日の休日



### 職場訪問

長谷部さんの現場は、農林水産省東北農政局が進めている米沢平野農業水利事業の一つで、水田の原形復旧工事だ。用水路などを改修するために土を盛った水田を元の状態に戻すものだ。

「超、が付くほどの軟弱地盤で「豆腐の上で工事をしているような感じ」という。敷き鉄板で仮設の道路をつくり、慎重に工事を進めている。もちろん、作業員さんたちの安全確保が第一。みんなの体調管理にも気を配る。



### トータルステーション

測量機器の一つで、距離を測る光波測距儀と、角度を測るセオドライトとを組み合わせたものであり、従来は別々に測量されていた距離と角度を同時に観測できる。







## 舞台は建築現場 舞い踊るバレリーナ

建築部  
**引地 彩さん**

1989年8月24日生まれ。福島県猪苗代町出身。

株式会社東北入谷まちづくり建設  
〒965-0844  
本社 / 福島県会津若松市門田町大字一ノ堰字村西708-9  
TEL.0242-27-1248 FAX.0242-28-0817  
URL <http://www.yume-h.com/shop/tohokudoboku/>



## 狭き門もガッツで見事採用 建物が組み上がっていく様子に醍醐味



東北入谷まちづくり建設にとって初の女性現場技術者として入社した引地彩さん。工事現場には似つかわしくない華奢な体つきにおとなしそうな引地さんはなぜ、現場技術者を目指したのだろうか。

引地さんは、福島県猪苗代町で生まれ育った。4歳の時に祖母の友人に誘われてモダンバレエ教室の見学に行ったのがきっかけで、バレエを始めた。社会人になった今でも続けており、毎年、舞台の発表会がある。「チームでオリジナルの作品をつくりあげていく過程が面白い」とにっこり。

バレエ以外にも中学時代はバスケットボール部、高校では陸上部に所属する体育会系女子だった。

高校は「インテリアに興味があった」ため、会津工業高校

の建築インテリア科に入学。建築の製図や構造計算の勉強をしているうちに「大学に入って本格的に建築を学ぼう」と、日本大学工学部建築学科に進んだ。自宅から大学までは片道1時間半、往復3時間も掛かるが「辛いと思ったことはなかった」という。

大学3年の春休み中に東日本大震災が発生した。自宅や大学周辺は、沿岸部のような津波被害はなかったものの、ライフラインの断絶や福島第1原発事故の影響は少なからずあった。卒業論文では、子どもたちの遊び場で放射線量を測定し、その結果をまとめた。

そして迎えた就職活動。「建築の現場で働きたい」と他業種には目もくれず、建設会社に的を絞った。男女平等社会とは言え、技術職を目指す女性学生にとっては狭き門。東京や仙台にも足を運んだが、なかなか内定をもらえなかった。それでもあきらめずに就活を続けた結果、東北入谷まちづくり建設に決まった。

高校・大学で7年間、建築の勉強してきたものの、現場は分からないことだらけ。「覚えることに必死だったので、入社当初の記憶がほとんどない」ほどだ。

最初に担当した住宅工事では「失敗の連続でたくさん怒られた」が、「その家の子どもに『おうちを作ってくれてありがとう』と言われた瞬間、それまでの苦勞が吹き飛んだような気がした」と振り返る。

まだまだ駆け出しの身だが「建築は出来上がっていく工程が面白い。何も無い土地に基礎をつくり、柱や梁などを組み立てていく様子を見ていると飽きない」と、少しずつ現場



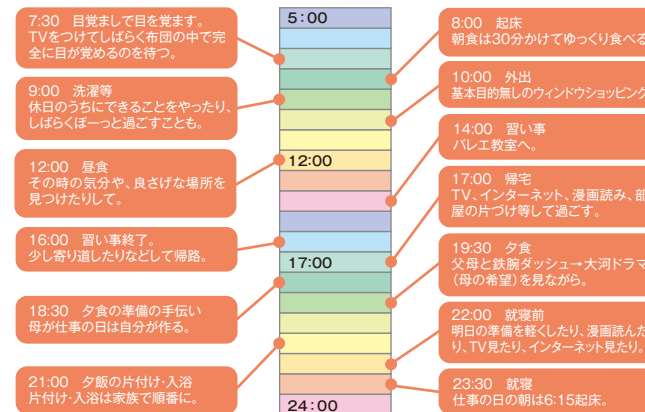
の醍醐味が分かってきた。

「女性であることのハンディキャップは感じない」ときっぱり。それでも「作業着の大きさが合わない。一番小さいサイズでも自分にとってはブカブカで、少し動きづらい」ことが不満だ。

自分と同様に現場技術者を志す女性の後輩には「肩に力を入れて仕事をしてもらうまいか。職人さんたちも気さくに話しかけてくれるし、いろんなことを教えてもらえる。あまり気負わず、『やってみたいなら、やってみよう』という感じで飛び込んで良いと思う」とアドバイスする。

引地さんが得意なモダンバレエと建築の現場は「みんなで一緒につくりあげていく面白さがある」ところが共通しているのだろう。引地さんが現場代理人（所長）となり、多くのスタッフを率いて新たな作品（建築物）をつくりあげる日もそう遠くないはずだ。

### ある日の休日



### 職場訪問



引地さんが担当している現場は、福島県会津若松市下町の「坂下南幼稚園改築工事」。もともとあった古い幼稚園を解体し、新しく建て直す工事だ。平屋建てで、建築面積は1742㎡の規模になる。

引地さんはこの現場で、上司の指導を受けながら施工図作成や工事写真の撮影、書類づくりなどに取り組んだ。完成が近づくと「子どもたちがけがをしないように配慮している部分が沢山あった」ことに気付いた。



### 教えて！ 建設用語

#### 水準器

面の水平を定めたり、傾きを調べたりする器具。水管内の気泡の動きを利用して面が水平のとき気泡が中央にくるようにしている。







**発行 東北建設業青年会**

〒980-0824 宮城県仙台市青葉区支倉町2-48 (宮城県建設産業会館5階)

TEL 022-263-9271 FAX 022-268-4293

<http://www.miyakencenter.or.jp/rengoukai/sub2-5.htm>

